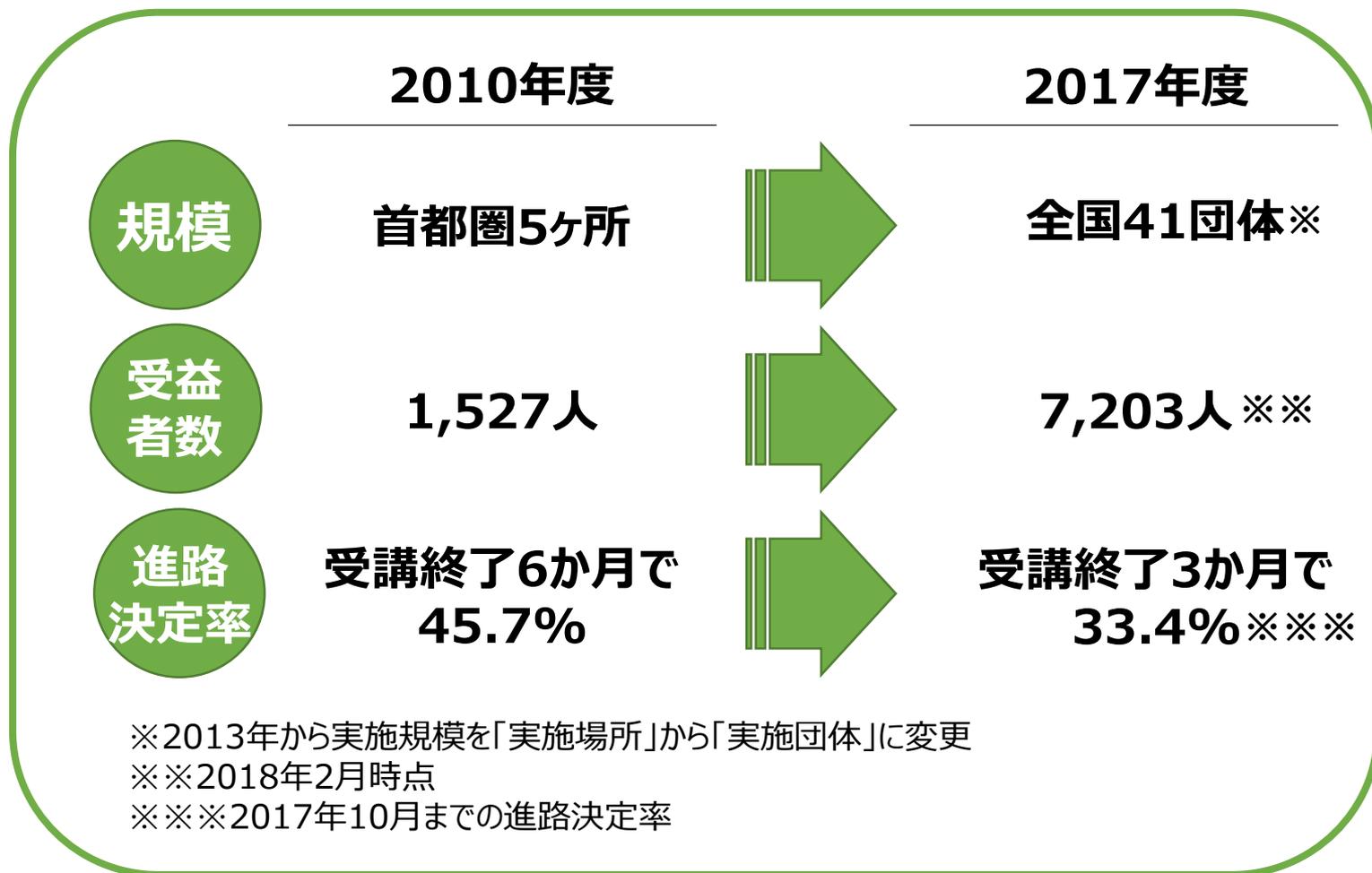


# 若者UPプロジェクトの成果



年度・規模	のべ受益者数	進路決定率（対実受講者）
2010年度 首都圏5力所	1,527人（目標1,200人）	受講修了から6ヶ月で45.7%（目標：30%）
2011年度 全国24力所	6,011人（目標4,800人）	受講修了から6ヶ月で54.3%（目標30%）
2012年度 全国22力所	4,653人（目標設定なし）	受講修了から6ヶ月で49.7%（目標30%）
2013年度 全国30団体*	6,106人（目標6,000人）	受講修了から3ヶ月で42.0%（目標30%）
2014年度 全国43団体	8,944人（目標8,000人）	受講修了から3ヶ月で39.6%（目標30%）
2015年度 全国43団体	8,020人（目標 8,000人）	受講修了から3ヶ月で39.4%（目標30%）
2016年度 全国41団体	8,132人（目標 10,000人）	受講終了から3か月で43.0%（目標30%）
2017年度 全国41団体	7,203人**（目標 10,000人）	受講終了から3か月で33.4%***（目標30%）

\*2012年度までは「実施場所」を単位として計測、2013年度からは「実施団体」を単位としている

\*\*2018年2月現在の数値

\*\*\*2017年10月受講者までの進路決定率

出所) 旧若者UPプロジェクト ウェブサイト

# 若者UPプロジェクトの成果



若者UP 卒業生インタビュー

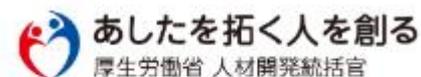
高卒後10年間の  
フリーター生活を経て  
念願のプログラマへ。

株式会社 DankSoft

柳沼義智さん (32歳)

出所) 旧若者UPプロジェクト ウェブサイト

# 2018年度からは厚生労働省の 政策として引き継がれ実施されている



## 若者UPプロジェクト

### 受講方法

若者UPプロジェクト  
実施サポステを探す

※実施は一部のサポステです。  
詳しくは若者自立支援中央センター  
にお問い合わせください。

実施サポステに問い合わせ、  
スケジュールや  
申込手続きを確認

サポステからの  
案内に従って申込み

出所) 厚生労働省ウェブサイト

©若者TECHプロジェクト

# コレクティブインパクトの視点から見た若者UPプロジェクト 異なるプレイヤーが協働するためのアプローチ手法としての コレクティブインパクトの位置づけ

名称	内容
Funder Collaborations	<ul style="list-style-type: none"><li>• 共通の関心領域を持ち、ともに資源を有するプレイヤーからなるグループ</li><li>• 一般的に、包括的なプランやアクションは無い。</li><li>• 共通の評価システムを持たず、参画プレイヤーの多様性も低い</li></ul>
Public-Private Partnership	<ul style="list-style-type: none"><li>• いわゆる官民連携。特定のサービス提供のために締結される行政と民間の協働形態</li><li>• 参画プレイヤーや活動目的やアプローチは限定的</li></ul>
Multi-Stakeholder Initiatives	<ul style="list-style-type: none"><li>• 共通のテーマに対して、異なる複数のセクターのプレイヤーがボランタリーベースで協働</li><li>• 事務局がない場合が多い（それぞれが活動する）</li></ul>
Social Sector Networks	<ul style="list-style-type: none"><li>• 公式・非公式にかかわらず、特定の目的や関係が接点となって緩くつながっているネットワーク（個人、組織問わず）</li><li>• 活動の多くは情報共有レベルか、短期的な目的のための協働レベル</li></ul>
Collective Impact Initiatives	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特定の社会課題を解決するための共通のアジェンダに基づいた、異なる分野のプレイヤー（のグループ）の長期的で責任ある関わり</li><li>• 共通の評価システム、相互に強化し合う活動、定期的なコミュニケーション、支柱となるサポートといった要素によってサポートされている</li></ul>

出所) Kania & Kramer

# コレクティブインパクトの視点から見た若者UPプロジェクト コレクティブインパクトを実現するために重要な5つのポイント

